

日本訪問（9月23日～10月19日）に関するご報告

前書き

Muhimbili University of Health and Allied Sciences (MUHAS)の眼科医局長で眼科医の Anna John Sanyiwa と申します。MUHAS は2007年から日本タンザニア眼科医療支援チームの支援を受けております。このチームは主に3つの支援を柱に掲げています。ひとつめは白内障手術に必要な多岐に渡る眼科医療器機、医薬品、消耗品の寄付。もうひとつの重要な支援としては、MUHASの眼科医の行う術式をマニュアル小切開術/E C C Eからフェイコへ切り替えるためのトレーニングです。また、医療技術者が寄付された器機の修理やメンテナンスを担えるようになるためのトレーニングも行っています。これら3つの支援は白内障が原因となる失明をなくすための努力の一環となっています。

今回の私の日本訪問の目的はマニュアル小切開術からフェイコへ切り替えて白内障のオペを行うことができるようになることでした。このプロジェクトを通して日本を訪問した最初の眼科医となれたことはとても幸運なことだったと思っています。私の日本滞在期間は9月23日から10月19日でした。この訪問を成功へ導いてくださった山崎先生に深い感謝の意を表したいと思います。

日本滞在期間中には、数々の有名な眼科施設を訪問させていただき、高度なスキルをお持ちの眼科医の方々にご指導いただきました。そして、高度な技術を持ち、勤勉な術者の先生方のオペを見学させていただく機会にも恵まれました。訪問させていただいた全ての施設において、優れたチームワークのもとレベルの高いオペの準備がなされていました。症例数は、私の勤務する施設では1日10症例かそれ以下ですが、私が日本で訪問した施設では1セッションを4時間とし、1セッションにつき25症例以上が行われていました。日本での滞在期間中は常に何かを学ぶ機会に恵まれ、それはとても思い出深いものとなりました。

名古屋では山崎先生とご家族の方々にお世話になり、その御厚意に感謝いたします。山崎先生にはアルコン、興和とご調整いただき、ウェットラボでのトレーニングの機会を与えていただきました。素晴らしいトレーナーの方々の御指導のもと、ウェットラボを3セッション行いました。実際にフェイコを行いながら核の硬さによってどのように器具を操作すればいいのか、というところから順序立てて丁寧に教えていただいたお陰で、スキルの向上を実感しました。また、山崎眼科では先生が日々どのように業務を運営されているのかを、そして先生の白内障手術の様子を見学させていただきました。業務を円滑にこなされており、標準治療の質も高く感銘を受けました。総合上飯田第一病院へも訪問させていただき、高水準の滅菌環境下で行われるオペを何例も見学させていただきました。

ウェットとドライの机太郎を使って無料でフェイコのトレーニングを受ける機会にも恵まれました。このトレーニングは机太郎の開発者である飽浦先生の御指導の元、AOCAトレーニンググループで行われました。ウェットとドライ両方の机太郎を使ってフェイコのトレーニングをし

ていただき、大変勉強になりました。飽浦先生からはフェイコの際使用する様々な器具の操作方を丁寧に教えていただき、また、柔らかい核から中程度の硬さの核、さらに硬い核を、チップを用いて乳化吸引する方法、そしてさらには合併症への対応を御指導いただきました。

徳島でお世話になった藤田先生にも感謝の意をお伝えしたいと思います。非常に高度なスキルをお持ちの先生と御一緒させていただき、私も自分の技術をもっと磨かなければならないと強く感じました。

藤田眼科ではプロ意識の高さ、患者さんに対する医療ケアの質の高さ、そしてスタッフの方々の素晴らしさを目の当たりし、是非自分の勤務する施設へ持ち帰って実践したいと思いました。藤田眼科では全ての業務がきちんと計画的に処理されていることにより、素晴らしいサービスを患者さんに提供していました。藤田先生のカリスマ性とリーダーシップ、奉仕精神からも様々な事を学ばせて頂きました。

東濃厚生病院では金田先生にお世話になり、オペの見学、補助をする機会に恵まれました。いくつかの重要なスキルを学ばせていただき、今でもその技術を習得し自分のオペ技術を向上させるために日々練習を続けています。また、職場でのチームワークは職場以外の社交の場でも発揮されていました。

山口県では広田先生にお世話になり、日本滞在中の素晴らしい経験となりました。広田眼科もまた、最先端の施設で、オペの様子やどのようにクリニックを運営されているかを見学させていただきました。広田先生の経歴をお聞きし、広田先生のスキルや広田眼科のレベルに達する事ができるよう頑張ろうと思いました。また、山口大学病院にも数時間ではありましたが訪問させていただき、公共機関が抱える問題は日本もタンザニアも同じだということを知るに至りました。

堀尾教授はタンザニアにいらしてから、私と私の勤務する眼科のチームメンバーの模範となった方です。堀尾先生の病院へも訪問し先生の素晴らしいオペを見学させていただきました。堀尾先生とは 突発性熱帯神経障害に関して話し合いました。先生はこの疾患の問題解決へ向けて私達と共に研究を進めて行くことに興味を持たれ、その研究を進めるために、トーマーに ERG を寄付してもらえよう交渉して下さいました。堀尾先生のお陰で、現在、その ERG を使用しています。ただ、情報の読み取りが多少難航しているので、2012年9月に支援チームの皆さんがタンザニアにいらした時に問題を解決いただければ大変助かります。

井上先生、最後ではありませんよ！井上先生の病院でのチームワークの素晴らしさは今でも思い出します。井上眼科ではフェイコ、涙道、緑内障のオペを見学しました。井上先生とご一緒させていただいた事はとても幸運なことであり、練習が技術向上につながることを学びました。先生の励ましに感謝いたします。また、息子に本をプレゼントして下さり、ありがとうございました。

小牧ライオンズクラブの会合にも参加する機会を得て、タンザニアとこの支援プロジェクトに関してお話しさせていただき、また、私の勤務する病院に貴重な器械を寄付して下さった人々にお会いする幸運にも恵まれました。ライオンズクラブを通してこのプロジェクトを進める努力をいただいているタンザニアのモシ市の姉妹都市である小牧市の市長にお会いすることができ、この会合への参加はとても重要な活動となりました。

最後になりましたが、東京で開催された眼科学会に参加するための手配をしていただいた山崎先生に感謝いたします。この学会中には科学的な発表をいくつか聴講するという素晴らしい機械に恵まれ、また、この支援プロジェクトに関して私からもいくつか述べさせていただきました。タンザニアの眼科診療に関して興味をお持ちの眼科医の方々ともお会いしました。佐々木教授はその1人で、タンザニアでのリサーチに関して意見交換をしました。そのリサーチが実現する事を心待ちにしております。

最後に、今回の日本訪問の中で最も大切だと感じたものは綿密に計画された社交イベントの数々でした。訪問した先々で歓迎会や送別会を開いていただきました。様々なおいしい日本食を試し、色々な種類の寿司や各地の名産品もいただきました。これらのイベントのいくつかをサポートしてくださった参天、アルコン、トーマー等の製薬会社の方々にも感謝いたします。名古屋ではお寺を見学し、また、動物園を訪れて熱帯地域では見ることのできない動物を見ることもでき、いい思い出になりました。夕食をご馳走してくださった御家族にも感謝を申し上げます。どのお食事もおいしかったです！！日本滞在中に2キロも体重が増えました。宿泊先のホテルは全て5つ星ホテルで、その御厚意に感謝いたします。

製薬会社の関係者の方々には移動の際に同行していただきお世話になりました。いつも時間通りに迎えに来て下さり、どこを訪れても安心して過ごすことができました。この経験を通して、お客様を私達の施設に迎える際にどうおもてなしすべきかを学びました。

バブー(竹内さん)、あなたのことも忘れていませんよ。広島ドームや大学病院にお連れいただきありがとうございました。

今回の日本訪問に関わっていただいた全ての方々に心から感謝を申し上げます。タンザニアフィリア、フランクさん、吉田さん、訪問させていただいた全ての病院のスタッフの方々、御家族の方々には特に感謝いたします。

日本の文化と風習が大好きです！日本に滞在する外国人は常に尊重されていると感じました。皆さんからは多くの貴重なプレゼントをいただきました。ありがとうございました！！タンザニアにもぜひいらしてください！！タンザニア、モンダイナイ！！

ありがとうございました！

Dr Anna Sanyiwa(MD,MPH)